冬~初春のへら鮒 浅ダナのセット釣り チョーチンのセット釣り バラケとグルテンのセット バランスの底釣り 段差の底釣 くわせエサの作り



付くことが多い。バラケ性を るため、思わぬ大釣果に結び は、大別して二通りに考える 備えた両ダンゴや両グルテン は新べらの放流も多く行われ ぐらいと考えよう。 この時期 るときの釣り。 年内いっぱい り切らず、へら鮒の活性があ ことができる。 ひとつは、まだ水温が下が 冬~初春までのへら鮒釣り

などが効果を上げる。

とグルテンの沖打ちの宙釣り のバランスの底釣り。 バラケ

りは厳しくなっており、釣り 年々へら鮒が大型化している 釣り場がこの状態に突入する。 年が明けたころから、多くの 水温が低下する真冬の釣り。 ことから、この時期の食い渋 人もその対策に追われること もうひとつは、一年で最も

となる。 テンも、グルテン量が多くて 釣りで使うくわせエサのグル 差の底釣り)。 野釣りのセット 心(浅ダナ、チョーチン、段 理釣り場はわらびウドンをく 遂げているともいえよう。 ィングなどが飛躍的に進化を 釣りを中心に、エサやセッテ わせエサにしたセット釣り中 しかしそのお陰で、セット

総論

鮒釣り

視になっていく。 膨らみを抑えた、ハリ持ち重

う。 た釣りをするように心掛けより場の状況や混雑度によって ・一つではない。 釣い場の状況や混雑度によって に分かれるわけではない。 釣いがでし、このふたつは厳密

また、最近の管理釣り場の

さらにいえるのは、形の崩

ナを作ってくれるからだ。 との釣りの傾向としては、ペシット系のエサが重要性を増していえることだろう。 ペレット系のエサが重要性を増していえることがある。 ペレット系のエサが重要性を増しては、ペタの釣りの傾向としては、ペ

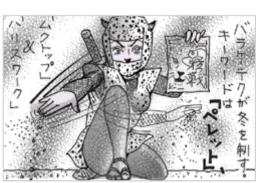
れにくい粒状ペレットの高いは、「粒戦」は非常品の「粒戦」を対から鮒をくわせち、粒状の落下バラち、粒状の落下バラち、粒状の落下バラち、粒状の落下バラち、粒状の落下バラカルと向かわせる。この冬のセットる。この冬のセットもしれない。

高い技術が求められてくる。バラケを抜くのかといった、面から何ほぐらいのところでなじみの釣りといっても、水例えば1mのセットで、ゼロに繊細になっていることだ。の持たせ方や抜き方が、さらの持たせ方や抜き方が、さら

が、PCやグラスなどのムク だが、浅なじみでフワッと抜 のサワリも、敏感に伝えてく トロークの幅がへら鮒の状態 るようになっているのもひと ケまで、幅は広い。 バラケ使 いてしまうバラケから、なじ ナセットでは、ウドンのみで をよく伝えてくれるし、浅ダ つの傾向。段底では、そのス トップのウキが、多く使われ きく変えてしまうといえよう。 いのテクニックが、 釣果を大 んで簡単に返さない持つバラ とバラケを抜くのがセオリー キを深くなじませ、じわじわ バラケの使い方に関連する 段差の底釣りはいったんウ

だろう。 パカモキー ポイントといえる

そして、冬の釣りは、ハリス使いが、釣りを決定づけなど)があるが、最近はそれなど)があるが、最近はそれなど)があるが、最近はそれなど)があるが、最近はそれなど)があるが、最近はそれるとうでは釣りさら上30m、下35mの底釣りなら上30m、下35mのようになっている。



傾向は、バラケエサン、段底に共通する

れる。ムクトップのウキの使

浅ダナ、チョーチ